

「WLN で活動する理由？ それは一人の女性でも影響を与えることができるから」

アナベル・ベネット オーストラリア連邦裁判所判事
AO(オーストラリア・オフィサー勲章) 受勲者

私は政府に属しておりません。民間企業に勤めている訳でもありません。私は判事で、これまで民間での職業として弁護士を開業してきました。オーストラリア国立大学の副総長代理も務めています。またこれまで多くの公共セクターや非営利団体の活動に関わってきました。もちろん女性です。

私は統計や政府の内部報告書類を入手できる立場にありませんので、私がこの場で述べることは、APEC を通じて WLN に参加したことによって認識を深めることができた一人の女性の視点からのものです。正直にいいますと、WLN に参加するまでは、私は幸せな成功者だと考えておりましたし、私の国で、社会や APEC エコノミーのあらゆるレベルにまで到達している女性のネットワークのことを心配するのは私の役割ではないと考えていました。私は次世代の女性リーダーの育成を重要な役割としているチーフ・エグゼクティブ・ウイメン(CEW)のメンバーであり、元議長です。しかし、極めて重要な組織とはいえ、CEW の活動は十分ではありません。

世界中で、政府や実業界のリーダーが平凡な意見を述べています。彼らは、女性そして女性が主導する企業は経済に欠かせないと主張する数多くのレポートを作成させては、いささか驚いた様子でそれを引証し、また同趣旨の数多くの学術記事を引き合いに出します。ロケット・サイエンティストでなければ、人口の半分を占める女性の知的スキルを活用するのが得策であることを理解できない訳ではありません。政府のレポートなどなくとも、訓練の欠如、メンターやネットワークの欠如、テクノロジーやクレジットへのアクセスの欠如などが主因となって、女性が実業界で不利な立場に置かれているのは自明です。女性に有利なビジネス慣行が事業の最終利益を高めることにもつながることは、エコノミストでなければ分からないことではありません。特定のエコノミーや文化だけにみられる特別な障害について述べている訳ではないのです。

WLN は次のような機会を提供します。

- 女性と協働する
- 行動を起こす必要性を女性に認識させる
- 経済活動と経済発展への女性のアクセスと参画を推進する最適な方法を議論する
- 女性に自らが持つパワーを認識させる
- (最低でも) 平等な参画を推進するために、政治的、社会的そして経済的パワーを行使するよう女性を刺激する

私を知る、APEC WLN 会議に参加した女性は例外なく、問題の所在と変化を起こす手段についての認識を深めて帰ります。彼女たちは自分の国で何かを実行する決意を持って帰っていきます。しかし、また 1 年が過ぎ、ほとんど何も達成されずに終わります。次の会議でも同じ提言がなされます。言葉は少し変えられていますが、中身は変わっていません。それは、提言が全く実施に移されず、いくつかの提言は何年もの間そのままにされていることを示すものです。関係大臣は毎年、言質を与えないように総論的な支援を表明します。私たちの提言は「承知」し「歓迎」さえされます。しかし、また 1 年が過ぎますが、私たちはそれぞれのエコノミーで、少数派や不利な条件におかれたグループを斟酌する状況に変化はみられません。政府はもちろん、女性の地位向上に向けたプログラムや女性のためになるとされるプログラムを示すことができます。しかし、それらは明らかに不十分なものです。もちろんいくつかの政府は、他の政府に比べて成果を上げています。理想主義的に、APEC のどこかのエコノミーが策定した良いプログラムが他の全てのエコノミーで実施に移されると信じられるとすれば、それはいい知らせです。APEC は、加盟国・地域の構造改革を促せる立場にあります。中小企業や零細ビジネスに関連する規則を単純化するためのいくつかの試みが実施されています。それらは、女性が事業を経営する能力を強化するための第一歩となります。

私の国の政府は、女性のさらなる経済貢献をサポートするプログラムと政策の推進を志向するとされるいくつかのプログラムと政策を導入しています。それらには、女性にも有用な全般的な政策や、女性だけに关わるものではない、男女賃金格差の縮小、両親の無給育児休暇の拡大、ワークライフ・バランスの推進に向けた政策などが含まれます。政府や実業界の認識が高まることは、女性を対象にした賞や奨学金を普及させ広く知らしめるという面で有効です。そのような賞のひとつに農山漁村女性に向けたものがあ

り、これは第一次産業に属する女性は、農家に帰属するとされる経済生産のほぼ半分(236 億ドルに評価される)に寄与しているとの認識から生まれたものです。他にも、企業家精神と社会的責任を顕彰するヴーヴ・クリコ・ビジネス・ウーマン賞という賞があります。

オーストラリアとニュー・サウス・ウェールズ州の政府も、資源、雇用、市場そして貿易への女性のアクセスを促進する多くのプロジェクトを推進しています。オーストラリアはまた、太平洋諸国の女性の経済への参加と事業環境の改善に向けたプログラムを推進しています。しかし、それらは必ずしもWLNの提言が端緒となった展開ではありません。政府がそのような趣旨のことを発言したことを示唆するものは全く見当たりません。もしそのような事実があれば、政府はその点を明確にすべきです。そうすれば、WLNとAPECの地位も強化されるのですが。

私たち女性は哀れまれる集団なののでしょうか。私たち女性は、男性が私たちを助け、経済分野での私たちの目標や立場を押し進めるため何らかの施策を講じてくれるのをひたすら待つしかない集団なののでしょうか。なぜ私たちは自ら行動を起こさないのでしょうか。何といたっても私たちは50%の投票権を持っているのです。私たちは50%を優に越える購買力を有しています。私たちは、自分たちの目標のためにその力を行使するよう組織されていないだけ、動機付けられていないだけなのです。その気になれば私たちは何ができるかを考えてください。女性は男性と同じ権利を付与されています。その権利は教育を受ける権利、同一労働に対して同一賃金を受け取る権利だけではありません。機会にアクセスし、そのために資金を調達する権利も含まれます。

WLNは社会及び事業活動の全ての層に届くことができます。それは変化をもたらす手段となりえます。それぞれのエコノミーの女性は、他のAPECエコノミーの女性が同じ行動をとると考えられれば、安心することができます。メッセージは明確です。それが無視されることはありません。それには努力が必要です。可能な限り多くの女性と接触する努力、共通の目標に向けて様々な関心と背景を持った女性と手を携える努力が必要です。

一人ひとりの女性が、アイデアや個別の提言を実施に移す方法を考えなければならないという思いを持ってWLN会議に参加するのであれば、会議

の最後に、それらの戦略を議論し、WLN 提言の一部に織り込むためのセッションが設けられるかもしれません。それらの提言のひとつは、各エコノミーの女性が自ら実際にとる積極的な行動を提案するものでなければなりません。私たちのための作業の全てを政府に行うよう要求するのでは不十分です。しかし、各エコノミーが、教育、経済、産業そして貿易など関連の担当大臣を WLN に出席させることを約束するなら、それが出発点となります。

私たちは、WLN を、単なる女性ネットワークの行事にとどめるのではなく、経済全体に真に有効な影響を与える組織にまで高めなければなりません。

簡単なことではありませんが、一步を踏み出さなければなりません。ここ東京で第一步を踏み出すことができるかも知れません。WLN オーストラリアのテーマ「一人の女性でもできる」を忘れないでください。